

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 児童デイサービスあさひ丸さくら

保護者数(児童数)36 回収数28 割合77.7%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	3	0	5	・人数が増えたと聞いているが活動の様子を見ていないので分からない。 ・利用が長期休暇の時だけなので分からないの評価が多くなっています。	
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	2	1	7	・先生は少ないと思います。	必要な基準の人員は必ずおいています。
	③ 障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化が適切になされているか	17	4	1	6	・トイレがもう一つ欲しいです。	バリアフリー対応はしておらず、トイレを増やすなどは大規模な改修が必要なため、現状難しい。
適切な 支援の 提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	28	0	0	0		
	⑤ 活動プログラムが固定化されないよう工夫されているか	23	2	0	1	・子どもの意見を取り入れて、おやつをタコ焼きにしてくださいました。	今後も子どもたちや保護者様のニーズを取り入れていければと思います。
	⑥ 放課後児童クラブや児童館等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	9	2	13	・コロナ禍の前は活動していたと思います。	
保護者 への 説明 等	⑦ 利用者負担等の説明や支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	27	1	0	0		
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	25	3	0	0	・子どもの特性を理解していない支援員の方もいる。	研修をさらに充実させていき、全ての職員が特性を理解して支援出来るようにしていきます。
	⑨ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	25	1	1	1		半年に一度面談させていただいております。
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	6	7	11		保護者会は行っておりません。今後必要に応じて行う事があるかもしれません。
	⑪ 子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	23	3	0	2		
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	26	2	0	0		
	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	25	3	0	0		ホームページにて公表しております。
	⑭ 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	24	2	0	2		
非常時 等の 対応	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	23	1	0	4		周知できていないところもあるので、皆様に周知できるようにしていきたいと思います。
	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	1	0	3	・毎月の避難訓練のおかげで、地震が家でおきた時、すぐに頭を守っていました。	
満足 度	⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか	27	1	0	0		
	⑱ 事業所の支援に満足しているか	25	3	0	0	・大変感謝して利用させていただいております。 ・いつもご支援頂きありがとうございます。	ご期待に添えるように努力して参ります。

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月 31日

事業所名 児童デイサービスあさひ丸くら

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	4			突発的に危険な行動をとる児童もいる中で未就学児も同じ空間にいてヒヤリとする場面がある。人数が多い時、一人にしておけないお子さんの時に安全面の担保に課題。人数によってせ
	②	職員の配置数は適切である	4	4	1		児童の人数に対して職員数が足りていないと感じることの方が多い。特に送迎関係で一人では見きれない人数を見ないといけない場面があり不安を感じる。定員を超えている時に余裕を持った関わり方が難しい。急な体調不良等で欠
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	4	2		工夫の余地がある。(タイマーを視覚的にわかるようにするなど)施設の構造上やむを得ない。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	5	4			職員間での差が見られる。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1			
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	8	1			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	4		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			やらなければいけない研修が増えたこともあり、回数が増えた。感想を提出するなどすることで職員もしっかり考えられるようになった。	研修は行っているが、理解に至っていないと感じることがある。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	6			標準化されたアセスメントツールがなにか不明。職員間でバラツキがある。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1		社員だけでなくパートさんにも参加してもらおうようにした。	なるべく多くの職員に参加してもらい、主体的に出来るようにしていきたい。
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	7	2		レク、室内ゲーム、リズム体操など毎回変えている。	未就学向けの活動は合わせても良いのではと思う。様々な活動を行っているが、スタッフの人数によって内容が物足りないとき
	⑬	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	8	1			
	⑭	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2		グループLINEを活用することで、伝達しやすくなった。	

	⑮	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1		支援記録の記入の際に些細な事でも子どもの様子を話すことで情報を共有できている。	
	⑯	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2			職員によって記録の書き方に差異があり、内容が一律なこともある。ただその日やったことを書くだけになってしまい、どういう様子だったのかが書かれていない時がある。
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9				
関係機関や保護者との連携	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画している	7	2			
	⑲	母子保健やこども・子育て支援等の関係者や学校、関係機関と連携した支援を行っている	4	5		学校の先生と話す機会が以前より増えた。	連携と言えるほど徹底できていない。
	⑳	就学前に利用していた保育所、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	3	3		
	㉑	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	4	4	1		
	㉒	児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4		専門職員の参加が増えている。	
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもと活動する機会があるか	2		7		
	㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	4	1		
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	5			
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	4		保護者様への対応に対してのトレーニングは必要と感じる。
	保	㉗	運営規定、利用者負担等の説明や、支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	9			
㉘		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	4			定期的ではない。
㉙		父母の会の活動をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	7		

護者への説明責任等	③⑩	子どもや保護者からの相談や申し入れ、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している				
	③⑪	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の除法を子どもや保護者に発信している	8	1		
	③⑫	個人情報の取り扱いに十分注意している	7	1	1	支援記録を書く場所等もう少し配慮を要する。
	③⑬	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	3		学校からのアドバイスを書式にまとめて職員に伝えるようにしている。
	③⑭	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2		7	コロナ以降、あさひ祭りが開催できず行えていない。
非常時等の対応	③⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練が実施している	7	2		各災害についてのベース作りをした方が良い。
	③⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行っている	4	4	1	利用人数に対して職員の人数の足りなさなどから必要な訓練をしたくても出来ないことが多く、いつも同じような訓練しかできていない。地震の時ばかりになってしまい防犯、感染はできていない。不審者対応の訓練も必要だができていない。
	③⑰	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	2		服薬に関しては飲み始めたり、変わったら連絡をくれるよう、もっと周知した方が良い。
	③⑱	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1		
	③⑲	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			ヒヤリハット概念がスタッフによって差がある。作成はしているが、見ていないのか同じ内容のことが繰り返しおこることがある。
	④⑰	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1		気になったら報告するようにしている。研修はおこなっているが言葉使いなど理解できていないスタッフもいる。
④⑱	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9				

事業所自己評価のまとめ

事業所名 児童デイサービスあさひ丸さくら

職員による自己評価と保護者に評価の共通点

職員の人数に関しては不足と感じる部分もありますが、必要な基準人員は確保しており、他事業所に応援を頼むなどして、補っていけるとことは補っていきたいと思います。

研修に関して、今まで以上に内容を充実させていき、質の向上に努めていきたいと思います。

相違点

改善点と改善への取り組みを話し合った結果

活動に関しては見直しを行い、新しい物を取り入れたり、既存のものに関しても変更を行っていき充実させていきたいと思います。

他事業所や他機関との連携をもう少し強化していきたいと思います。